

(1) 単元名

ころぼかぼか手紙をかこう

(2) 本単元についてのつまずき

柏市学力・学習状況調査の結果より、「書くこと」のつまずきが見られる。また、質問内容を「読むこと」のつまずきや、「意味による語句のまとまり」についてのつまずきが見られる。

(3) 実態解消に向けた指導例

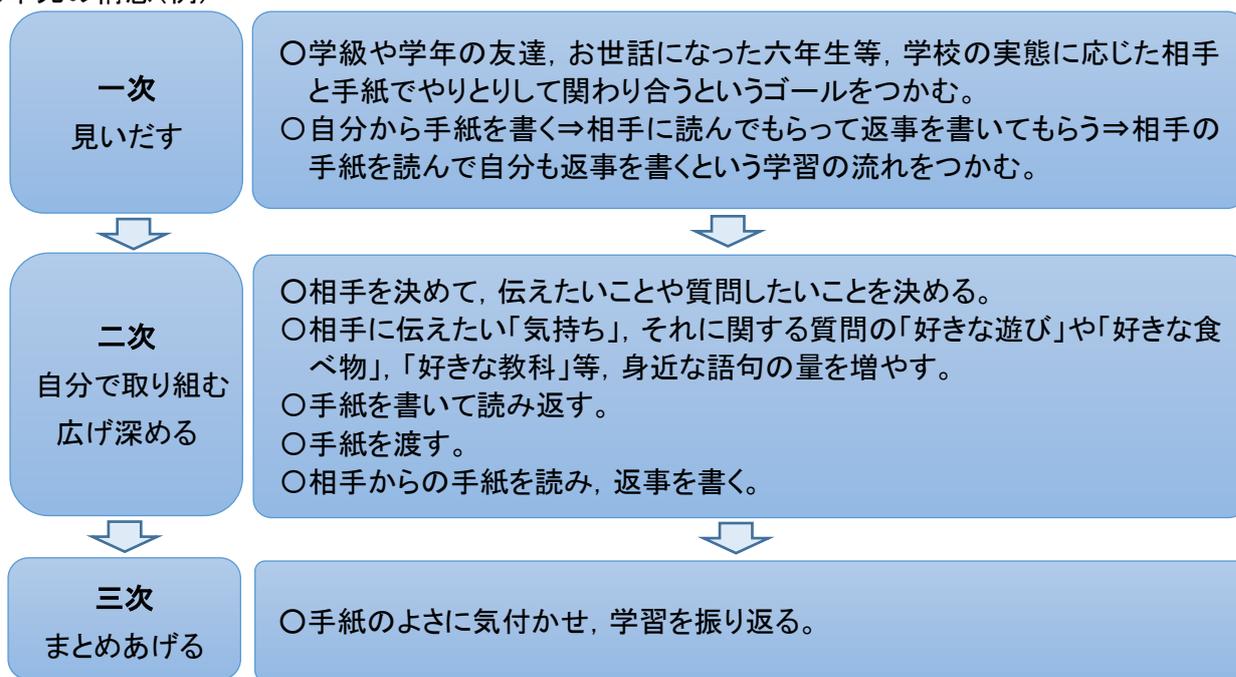
① 学習指導要領との関連

- 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。
(知識及び技能 (1)ーア 言葉の働き)
- 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。
(思考力, 判断力, 表現力等 C 読むこと - オ 考えの形成)

② つけたい力に合った言語活動

ころぼかぼか「文つう(手がみのやりとり)」をしよう

③ 単元の構想(例)



④ 指導のポイント!

思ったことや伝えたいことを書く活動の際には、言葉には「事物を表す働き」や、「経験したことを伝える働き」があることに気づかせることが大切である。手紙を書かせる前には、書きたい内容に触れ、そこから関連する言葉を集めて語句の量を増やすようにする。さらに、集めた言葉を仲間分けする活動を行い、言葉には意味による語句のまとまりがあることにも触れ、語彙を豊かにしていくとよい。

書く力を身に付けるためには、実際に文章を書く活動をなるべく多くとることが大切である。そこで、言語活動を「文通」としたことで、手紙を一度書くだけでなく、返事を読み、それを受けて手紙を二度書くことになり、目的をもって書く活動に多く取り組むことができる。相手の手紙を読み、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつという主体的な読みの学習にもつながる。

最後に、各学校の実態に応じて、国語の学習にとどまらず、学級活動や生活科との関連を図り、指導の効果を高めていくとよい。